

■【トピックス】

春はいつ来るのか！



季節は春になっても、景気には春が来そうにもありませんね。誰もがじっと動かずに我慢している状態ではないでしょうか。

じっとしているだけでは、少しずつ弱っていきます。体力のない企業から淘汰されていきます。

このままでは、縮小均衡を目指して経済が縮小し、高い失業率が長く続くこととなります。こんな時こそ一人一人が夢をいだいて進んでいくしかないようです。

■【ビジネス・アイ】

少人数私募債（その1）

社長 「花野さん、銀行が厳しいことを言ってきたよ。今度の決算も赤字なら追加で担保を入れてほしいってことだよ」

花野 「そうですか。銀行自身この不景気による倒産や株価の下落で、自己資本が相当痛んでいましてから彼らも苦しんでしょね」

社長 「そういっても、こっちだって苦しいよ。もう担保に入れる資産もないしね」

花野 「それなら、社長、銀行からの融資だけでなく御社自身が社債を発行して取引先などから資金を調達する方法を検討してみませんか？」

社長 「社債を発行するってうちみたいな中小企業にできるの」

花野 「会社法になってからは、社債自体は会社であればどんな会社でも発行できるようになったんですよ」

社長 「でも、うちみたいな会社の社債を引き受けてくれるところがあるかな」

花野 「それは社長の熱意と会社の将来性にかかっています。キチンとした事業計画を作成して情熱をもって説明すれば引き受けてくれる人はきっといるでしょう」

社長 「でも、手続が面倒くさそうだね」

花野 「社債を募集する人を 49 人以下にする少人数私募債にすれば、手続もコストも簡単にできますよ」

社長 「それなら、1 度検討してみるよ」

■【今月のキーワード】

少人数私募債

社債を発行するというと敷居が高いように感じますが、募集する人数を少数（49人以下）に絞ってしまえば、意外と簡単に発行することができます。

社債については、会社法と金融商品取引法が規制していますが、例外的に少人数の私募債であれば、難しい規制に掛からずに発行できます。

ただし、いくら社債といっても資本金ではないのでキチンと返済する必要があるのはいうまでもないことですね。

■【今月の1冊】

『社長さん！銀行員の言うことをハイハイ聞いていたらあなたの会社、潰されますよ！』

篠崎啓嗣 著 川北英貴 監修

すばる舎リンケージ

¥1600

株価の下落が、銀行の自己資本を毀損しています。その結果、融資姿勢が厳しいものになります。

それでも中小企業には融資が必要です。そんな時に銀行の言いなりにならず、交渉するために必要なことが書いてあります。

中小企業の経営者必読の1冊です！



■【編集後記】

花粉症を発症して十年以上になります。この時期お花見に行きたいとは思いますが、花粉症の症状のことを考えると二の足を踏んでしまいます。いつの日か花粉症の特効薬ができてこの苦しみから解放されることを祈らずにはいませんね。

『NEWS LETTER』 vol. 24（毎月1日発行）

●定価：2,400 円/年 ●発行日：2009.4.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエビル5F

TEL052-205-6361 FAX052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>